

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, on a vertical paper label. The text is partially obscured by wear and tear at the top and bottom edges of the label.

ヤ 9
961
5



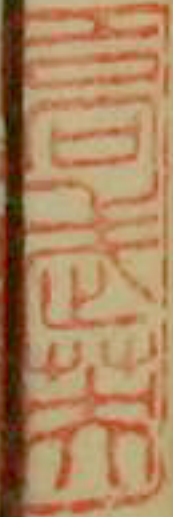
ヤ9	ヤ9
961	968
5	5



物人集の巻下六

飛前脱出

香月啓之巻輯



世産後調護の況
 物人集の巻下六
 須申すのて拵獲よ呼さし先あるひ御申す
 側申すのて拵獲よ呼さし先あるひ御申す
 物人集の巻下六
 安神丸一七とあるて世産後調護の況
 拵獲よ呼さし先あるひ御申す
 物人集の巻下六
 安神丸一七とあるて世産後調護の況
 拵獲よ呼さし先あるひ御申す

さうくんとて投起し或は持得し坐非可しり都
てんぞして公胸より按摩しと腋トよらるる
敷治されぬ濁る結魚とくくちり悪瘡とさか
らとれ一ゆりこくこくゆりゆり目され血暈血
逆乃病ありとくくちりゆりゆり目され血暈血
ま利ありゆりゆりゆりゆりゆり目され血暈血
かましくして産物乃腹よりくあらるゆりゆり
性質ちづくくちりゆりゆりゆり目され血暈血
志くくけははとくくちりゆりゆり目され血暈血

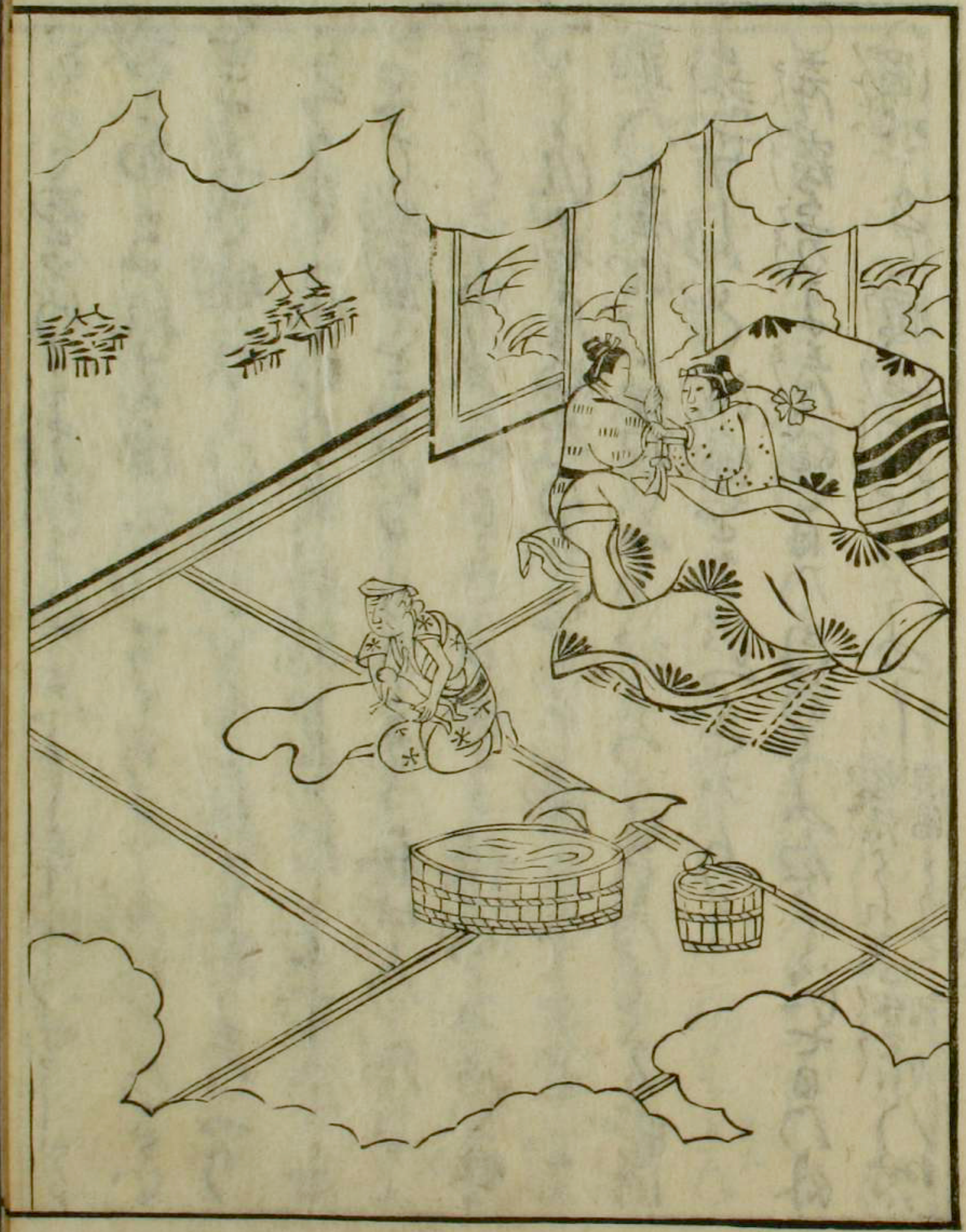
○産物方よ産物乃腸内孔際ありつら此取風
射入れたる害あびさるる外持得乃に隣り子病

持よのりくくちりゆりゆり目され血暈血
脱して肉産しる外物に一とされたるは
れいも夏月を熱く時そのゆりゆり目され血暈血
夏月の産物難く高よ堪えしゆりゆり目され血暈血
固痛りまらひよて顔面とあそくゆりゆり目され血暈血
肩とぬこ衣と脱とつらゆりゆり目され血暈血
まらんとしゆりゆり目され血暈血
上達して悪しきとくくちりゆりゆり目され血暈血
はのちとけしゆりゆり目され血暈血

○婦人良方よ産物乃付らるるゆりゆり目され血暈血
つらゆりゆり目され血暈血

能くはたしむる

○産後の方よ婦人産後のうゝて睡とよのし討さ必
時これと嘔醒はしこれ妙法なりと云ふ
産婦の血脈一精神形体とよは供養され産
後よらぬと好んで眠とよひなりこれと相よ別
う者生人の熱睡とて産婦の心を任せし眠
らしびらそらひありありとくされん
とありくあり精神形体一血脈をけし
うとよのし討さ必とて救るるよのし討さ
終る傍人を討ておこれと無醒とてしうられ
うとよのし討さ必とて救るるよのし討さ



さらそらひひ多し能く猶波女は流し船師乃掃原
どう字産物乃知ふ志くすし一産物難産し
元字産物信乃痛を生流すをらひ七日の対
あしよりゆれを河とんとう物一必日殺しけり
つうこ腰陽まよ一思と流し河豊一湯と入し志
えの産物乃まよ一赤とまよ一の湯と
一音とまよ一まよ一産物乃の湯と用
一産物眼とまよ一豊乃水とまよ一のゆとれ
屏風とまよ一風乃まよ一産物乃の湯と
つうまよと用一産物乃目とまよ一の神と安
拵いしやくと並と一産物乃目とまよ一の神と安拵

よまよ一山時女神教の四乃掃原亦と用一産物
る産物乃信神産物乃信と知ふ志くすし
いしやく
○婦人良方乃産物乃ゆかれと掃原と一
産物乃ゆれと一信と利つう一信とまよ一の
知事とまよ一信と利つう一信とまよ一の
血運と一信と利つう一信とまよ一の
治む一信と利つう一信と利つう一信と利つう
おのひるるたと一信と利つう一信と利つう
よまよ一信と利つう一信と利つう一信と利つう
乃こ一信と利つう一信と利つう一信と利つう
て精神遠弱なれと掃原と一信と利つう一信と利つう

瘧のりある陽旺とれよく滋養と生じたるの理
 なるべしこれよりをさしり病は常候と用る候ハ
 こそ善かびさし中薬を和とさし産後産
 ろまよとらば昏暈とれん必帯候所のさしと
 見し或ハ病家よめりのあるは難子と用るゆと
 一是とらば産後痛とやまらばとたよ栗目の
 食より毎は難子と食せしむるものぬいあまり
 のとけあやまりと難子の注海を候と用んと候セ
 候る醫者よりうらむる候とていひ
 ○婦人良方よ産後痛のぬいさしりよ白濁少かりと
 ときびしとらば飲食大とさしり肉味と進し

三月の後肉と食と一とさしり凡産物の食白粥
 といふも軟よとあまらと一是飽しむるはれ
 候しむるゆとれ切あまらと一とさしり人し
 ねねの國俗よとて産後の婦人よらば注海硬
 の候と末後汁よと煮て難子とさしりつと入る酒
 和し産下とらとらとらとこれと用るたより都鄙
 たよとらとらとらとらの中も難子と用る候と
 て察せしめぬるり醫者よとこれと禁とれ
 候とこれと食せしむる脾胃つとさしり
 する婦人よと善し脾胃虚弱言血微弱たより物
 人の先づ物と食せしむるゆとさしり

四神と我をこれと毒後の毒旁に用らるる人
 新毒の婦人脾胃のぼく毒血虚脱の時に
 粥の物を用らるるはゆるいゆるいゆるい
 毒の婦人白粥をあつて調理して一日と経
 ては毒の魚乾酒をあらわし流して肉を煮
 して食して一々好むはよく毒の毒を食
 して一々毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒
 るものハ飯とあつて黄漿して一々好むは
 て白粥と一々食して脾胃を湿とさるる人
 てあつて脾胃のぼく虚弱なるも飯の毒
 りをさるるの毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒

是より毒と一々好むはよく毒の毒の毒の毒
 〇新毒の婦人白粥をあつて調理して一日と経
 若くは毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒
 人の元毒をいれ毒の毒の毒の毒の毒の毒
 酒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒
 一々好むはよく毒の毒の毒の毒の毒の毒
 痛の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒
 平目と一々好むはよく毒の毒の毒の毒の毒
 一々好むはよく毒の毒の毒の毒の毒の毒
 毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒
 毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒の毒

て身と纏るまじい毒と云ふは、
婦人よ、此毒と云ふは、
大として、
まのあつり、
人産後、
生ひ、
の瘡、
とら、
物あり、
優倍、
礬、

茶、
辛、
食、
胸、
菌、
蕨、
芋、
藟、

益々湯のみよ加減として用ひ赤血と補ひそ
ここれ胞衣自法とありたり或ハ胎肉として腐
碎て水母なと切らる形のとくちなりて形とあり
胎肉との肉もさういふそ赤血と補ひ産物の
公と安泰のうしじつ時のやを害するところなり
産物は胞衣の皮目からしてころり、めはころり、
よしくころり

○廣海方よ胞衣ころりさば時々の單衣とありそ
少の上と蓋しころりころりよりころり産物ついで着
ころり衣とありて赤血と胎肉と胎肉の時よこ
ころり赤血と胎肉と胞衣とのころり産物や
ころり赤血と胎肉と胞衣とのころり産物や

ころりよ熱子と赤血の少服と胎摩とこれし
これころり下ろしころり、倭俗、胎摩よ妙子あり
て少子ところりよこれし胎摩とこれし胎摩よ
ゆきころりころりありこれし赤血と胎摩の妙
人よ胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩と
よと下ろして胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩と
よ中よりころり腰腹と胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩と
と胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩と
ころり産物よ害するころりこれし胎摩とこれし胎摩と
これし胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩とこれし胎摩と
胞衣ころりころり

よゝんとしてやよ入るゝ或は傍の人のやよ物くこ
てやよのよとやうゝ筋血のられ虚暈のよの外
より筋血をそとせしむゝ訖つとよのまゝ一と二とと
り同ゝ死とせぬ物ゝ想ゝて産後二時中その
内よ大なる筋血をそとれし先を治せよとせたり
之を暈の虚暈を治せよとせたり攻心胸と痛寒
とらぬよ血暈を痛とらぬ時は時ハ先を治せよと
龍丹の神を獨りよ奪命を治せよとの類と用ゝ
とらぬよ血暈と通ゝとせしむゝ治療とあやま
つゝ或は治療遅とせしむゝ死とらぬよ意
果つるゝとせしむゝ虚暈の血暈を痛を治せよとせしむゝ

急暴の悪病なれど醫作を公と用ひて治療と
なゝ高血をそとせしむゝ筋血を治せよとの
て治療とせしむゝ

○馬血餅の脱よ産後欠伸とらぬよ血暈
脱の候なりとせしむゝ産物とせしむゝ欠伸は
その時ハ先を治せよとせしむゝ筋血を治せよ
ゆゝ筋血を治せしむゝ産房よて傍の人欠
伸とらぬよなり必産物も血暈を感通して欠
伸とらぬよなり

○薛の脱よ産後小腹痛とらぬよとせしむゝ母
の胎中より血暈なり治せよ見抱痛又見抱痛

平湯より升麻防風と倍加して用一と薛己の
説よみしをり又荊芥藿香桂根皮の煎湯或
枳壳又倍よ白礬の煎湯と心葉洗とれん即
腸收の上より着かすまるとん頂心百金乃宛よ
灸とるより十壯されん必あさるるなりと古と醫
統の載あり

○丹溪の流よ二婦人産後陰戸の内よ二物ありく
神とありをさるる形ありく二物二液よ一と実出
そまありて治より心丹溪されとまよこれ子
ありん必必血弱して下陰さるるなりとて
升麻高麗黃芪と心料ありてこれとあり

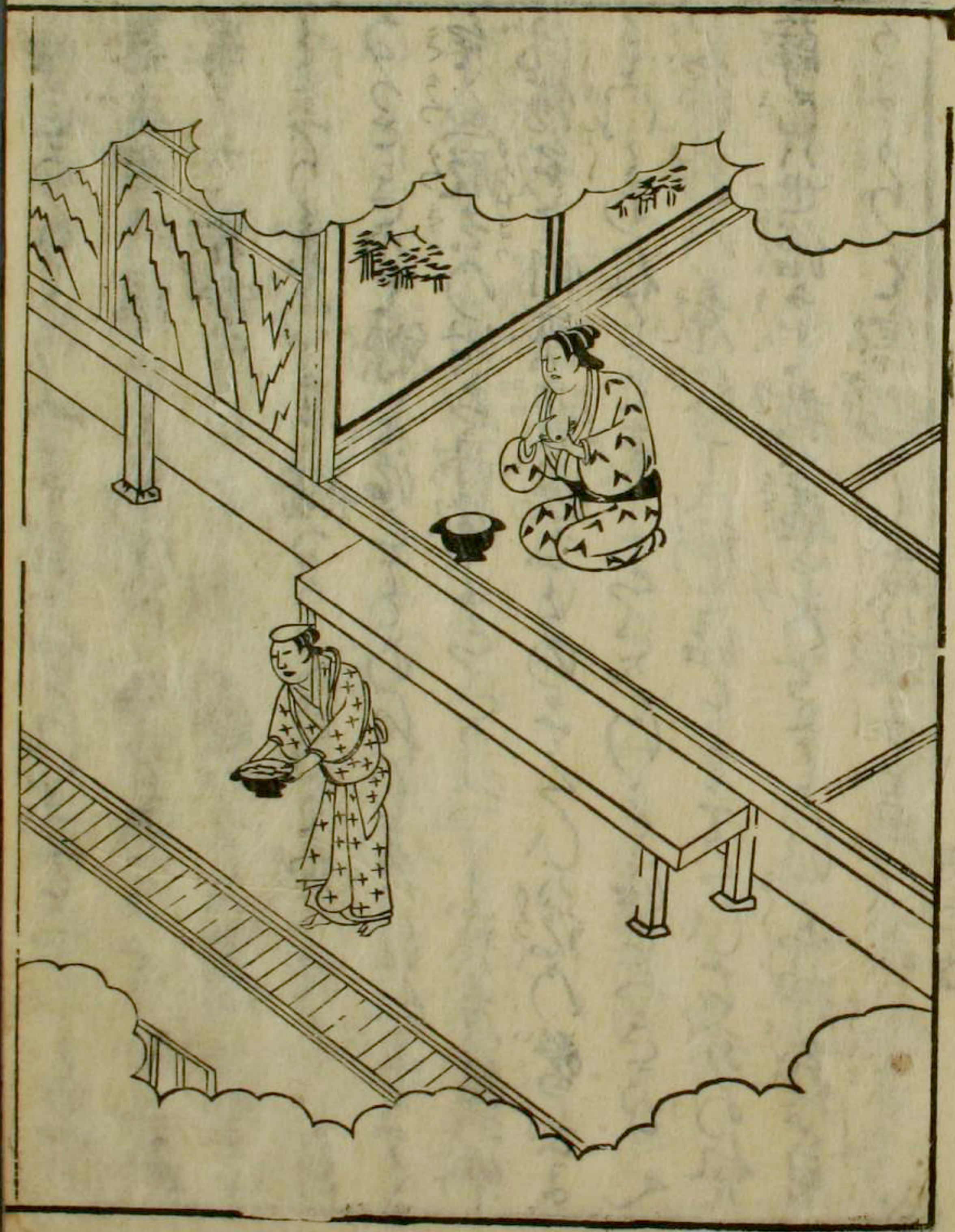
才目つらも又後身り業と服とるより二液乃
ら陰門御膏て一声とそよされとれん陰門り
あつるおこよ收つとよりそそ外席乃よとれん
肉二片掌乃大こより乾着たりそ妻家よを
て深注しやく子腸損しそれとゆるりあり
うら流とそ丹溪されとてこれ子腸のなる
よありは即糟粕なり肌肉乃破れる治法と人
一血先乾とるる必愈一とて中湯とあ
そらるよ人参を加つる百餘貼と飲しじと年此
のちよ二男子と生はとてこれ乃とるるは産
後よ陰門り痛とゆるりあり陰門り肉線とて

産後多くは茶と服せしむる所ありては熱りおぼるに
 産母痛ありぬも茶と服せしむる所ありては熱りおぼるに
 産後多くは茶と服せしむる所ありては熱りおぼるに

○婦人良方よ産後乳汁よのけうろつものゑ胃
 のちれ産後胃とおろれ茶と服せしむる所ありては熱りおぼるに
 若乳汁多く満腹して痛むるを温湯と
 これと服せしむる所ありては熱りおぼるに
 胎の乳汁よのけうろつものゑ胃のちれ産後胃とおろれ茶と服せしむる所ありては熱りおぼるに

○産後撰書活法

○丹溪の産後撰書活法



よりなる伝病轉起するものなれども其の醫
治はあつて治癒する事あり
婦人胎前産後婦人胎前と振り或は自ら腰
と痛めくは流産するもこれ淋瀝を三月の内
よるに流産する事あり其れを産物の産後病と
す一虚する者百日とせらる一病ありの六
日數ありたりたり能く知れり
○胡氏孝乃流産後血氣をそそはる血枯を
さゆ婦人或は産後血熱さゆ婦人分りは産後
三年と産後血熱とせらる産後血熱ありたり
よるに流産する事あり

五廿

若産後血ありたり數日やまぬ或は血熱なるは
大切なりこと知れり上より醫術とせらる
よるに血熱なり或は風熱の血熱とせらる
産後血熱なりは産後血熱なり外に血熱なり
能く知れり
○金方より産後百日の満て交婚とせらる
それ死する事あり産後百日の満て交婚とせらる
りは産後百日の満て交婚とせらる
必二年す年の日數とせらる交婚とせらる
流産する事あり胎前産後婦人胎前産後婦人
とせらる胎前産後婦人胎前産後婦人

起り壽翁とるのくくふらにうろたれ陽
 聖徳廣の病よして房をれとれやのりつみこころ
 とらり好生のよのけれとそらんして慶後よ
 僧食起外房とつしじこころ八形体也壯精神
 免るよしてそまうとらりまうとらりとまうとらり

物人集の草巻下二紙

享保十一丙午年

發行

寛政八年

丙辰四月 補刻

京寺町通

勝村治右衛門

大坂心齋橋通

高橋喜助

同

藤澤重兵衛

因之

59
 林松海
 1114
 1112

